

ワールドワイド携帯電話四半期動向

2008年8月4日報告

2008年2Q(4-6月)調査結果 目次

1	2008年2Q(2008年4-6月)結果の要約	3	7	端末需要動向推移	22
2	地域別累積加入推移(四半期別)	6	7.1.	2008年2Q(4-6月)需要動向	22
2.1.	BRICs(中国 インド ブラジル)加入推移	9	7.2.	地域別販売動向	26
3	方式別加入推移(四半期別)	11	7.3.	2008年メーカー別需要量予測	27
4	2008年加入者予測	14	8	Nokiaの2008年2Q動向	29
4.1.	地域別	14	9	Motorolaの2008年2Q動向	32
4.2.	方式別	15	10	Sony Ericssonの2008年2Q動向	34
5	主要オペレータ加入者数推移	16	11	Samsungの2008年2Q動向	36
5.1.	アジア	16	12	LGの2008年2Q動向	39
5.2.	西欧	17	13	5社以外の2008年2Q動向	44
5.3.	東欧	18	13.1.	Research in Motion	44
5.4.	北米	19	13.2.	Apple	45
5.5.	中南米	19	13.3.	日本メーカー	47
5.6.	中東/アフリカ	20	14	端末各社の出荷計画	48
5.7.	主要オペレータ加入者数推移の世界全体に占める推定比率	20	15	製品在庫状況	49
6	主要モバイルインフラメーカーの業績推移	21			

2008年2Qの世界の携帯電話市場概況

加入者数推移

4-6月期の新規加入件数は1.5億件とほぼ前期並みの水準になった。

2Qはアジアで中国、インド、日本が前期を下回ったため、地域全体の新規加入は前期を下回った。一方中南米、アフリカ地域の新規加入は増加し、アジアの新規加入減を相殺する結果になった。方式別では次世代の代替が目玉されたが、4-6月期のWCDMA代替は足踏み状況になった。

端末需要

安定した新規加入を背景に端末需要も堅調に推移した。順調な伸びを示したのは Nokia、LG で、それぞれ端末シェアを伸ばした。一方「その他」の中国国産メーカー、日本メーカーは国内環境の悪化から出荷は停滞した。また Apple も次世代リリースの過渡期にあたり 2Q の出荷は前期に対し 100 万台下回った。端末の ASP（平均端末販売価格）は Samsung、LG が Won 安を追い風に前期を上回ったのに対し欧米 3 社は為替、プロダクトミックス、端末値下げの複合的な要因から前期を下回った。

大手の端末収益性も 1Q に比べ悪化し、LG を除く 4 社は前期の収益レベルを下回った。Sony Ericsson は Motorola に続き部門収益は赤字に転じた。

4 月以降国内部品メーカーから大手端末各社からの部品発注鈍化の声を多く聞いた。

大手各社とも 2Q の出荷実績はそれほどフォアキャストと乖離していないが、国内部品メーカーに対する発注は当初の計画ベースを大きく下回ったもようである。Nokia を例にとるとローエンドへのプロダクトミックスの変更、新モデルのリリースの遅れが発注減の理由とみられる。同社のローエンド、あるいは派生モデルに対する部品調達姿勢は調達コストを最重要視しており、そのため部品価格の高い日本メーカーを避けたことが考えられる。

周知のように Nokia の端末内部構造はローエンドからハイエンドまで日本メーカーと異なりカスタム化により結果搭載部品点数は少なく、コネクタ、コンデンサなど汎用部品点数は少ないのが特徴になる。またカスタム化により部品搭載スペースも十分余力を残しており、そのため必ずしも価格の高い小型化は要求されず、一定の品質が確保できれば数世代前の部品でも可能な設計思想になっている。従って日本よりも低価格で調達できる中国、台湾の部品調達を拡大でコスト削減を図ることが Nokia にとっての得策になり、結果として日本の部品メーカーに対する発注減につながったのではないかと考えられる。